

平成29年9月12日発行

取組状況 (1)

防災教育や防災知識の普及_羽越水害から50年を契機とした啓蒙活動の実施

羽越水害50年行事『最上川防災フェア』の開催【羽越水害50年実行委員会】

～洪水に対する防災意識、逃げる意識の向上～

羽越水害50年行事のメイン行事となる「最上川防災フェア」を開催しました。

羽越水害を振り返る映像、近年多発する豪雨災害への備えについての防災講座、さらには羽越水害を超える大雨を体験できる大雨体験館、土石流模型実験、はたらく車試乗等、盛り沢山の内容を体験していただきました。

また、今年度、防災学習に取り組んだ地元小学校が学習を通じて感じた事や、地域の方に伝えたい事を発信[防災宣言]。

水害は決して他人事ではなく、自発的な避難行動の重要性などについて考えるきっかけになったのではないかと期待しています。

■日時 8月26日(土)

■場所 シェルターなんようホール(南陽市)

■内容 オープニングセレモニー、屋内外展示、ステージイベント

防災講座/①防災映像『羽越水害を振り返る』

②防災講演『豪雨災害にどう備えるか』:

気象予報士 森田正光

学習報告会/①飯豊町立手ノ子小学校『一日ダム管理所長』

②南陽市立赤湯小学校『こどもまち歩き!』

子ども達からの防災宣言



防災宣言

羽越水害から50年

水害は、昔のことではありません。

今日もどこかの町で

明日、この町でおこるかもしれません。

ぼくたち

わたしたちは

水害のために ふせぐこと

とめること

にげることをしっかり考え、取り組みます

これからの未来もニコニコ過ごせる町になるよう

水害に強いまちづくりのために

わたし達の合い言葉

か 家族でかくにんひなん場所

わ わすれるな 水害のおそろしさ

は ハザードマップで守ろう命

と とつぜんの雨には サイレン注意

も 物のじゅんぴ 心のじゅんぴで そなえよう

かわはともの合言葉をしっかりまもっていくことをせんげんします。

子ども達からの防災宣言



市民の声

- ・子供と一緒に、もし水害があったらどういう所に避難したら良いかを確認して、安全に生活できるようにしたい
- ・多くの人たちに、町全体を守ってもらっているということがわかった
- ・子供たちには何年経っても忘れてほしくない
- ・改めて羽越水害のことが知ることができたので、羽越水害のことを忘れないでいけると思う

最上川上流危機管理演習の開催【減災対策協議会】

～羽越水害で甚大な被害を被った置賜地方の市町・県・国が合同で実践的な訓練を実施～

置賜地方8の市町、国や県の河川管理者・山形地方気象台が合同で、羽越水害を超える大規模水害を想定した「ロールプレイング」方式による豪雨災害対応訓練を実施しました。今回の演習により、それぞれの役割を確認するとともに、反省点や問題点を明確にしました。今後それらを解決して、万が一の大規模洪水に対して万全を期していききたいと思います。

平成29年度最上川上流危機管理演習

■日時 8月30日(水)9:30～16:00

■場所 山形河川国道事務所

■参加機関 演習部:長井市、白鷹町、飯豊町、小国町、
総括部:米沢市、南陽市、高島町、川西町、山形県、国、山形地方気象台

■ポイント:

- ①羽越水害を上回る想定最大規模の降雨量、降雨パターンを想定。
- ②首長へのホットラインの充実。
- ③堤防決壊を想定した訓練。
- ④「要配慮者対応(H28小本川氾濫)」「河岸侵食や流木堆積(H29九州北部豪雨等)」をシナリオに反映。

最上川上流危機管理演習状況



状況付与班から演習部に状況付与を連絡



マスコミ役からの記者会見対応



演習部では付与情報を見ながら状況把握



編集後記

羽越水害から50年を節目とした「最上川防災フェア」に沢山の方にお出でいただきました。近年全国各地で豪雨災害が多発しており隣県である秋田県でも2度の大規模河川氾濫が発生。幸い県内では、大きな水害は発生していませんが、いつ起きてもおかしくない状況です。

子供達による防災宣言『かわはとも』でも謳うように水害時の避難は住民自身による心のあり方が大きく影響します。減災対策協議会でも改めて気を引締め、減災に向けた取り組みを着実に進めていきたいと思っています。